



諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校

10月2

平成26年度第15号

(平成22年度指定)

☆☆ 2学年 SSH コース課題探究第2回中間発表実施 ☆☆

9月28日(月)の午後14時20分から本校物理室で2学年SSHコース31名の課題探究中間発表会を催しました。発表したグループは以下の10グループです。

- I スプライトの発生条件～電波観測による雷規模の推定～、
- II 大腸菌を防ぐ天然抗菌シート作り、 III 楽器音の分解と合成、
- IV 「マッチ問題」の解法に迫る、 V 粘菌の特性、 VI フラックス法による人工ルビー結晶の育成、 VII 圧力分散型堤防の可能性、
- VIII 色素増感太陽電池～効率の良い発電を目指して～、 IX みその秘密にせまる、 X 振動反応～第一振動と第二振動の関係性～



仲間の司会のもと、発表する「楽器音の分解と合成」グループ

本校SSH事業では、課題探究における課題を見出す力、課題を解決する力、結果をまとめて発表する力をつけるために、SSHコース全員による討議を大切にしていける指導を実施しています。テーマ設定では、生徒それぞれがテーマを持ち寄り、それが探究に相応しいものか(内容、約10か月という時間等)討議したうえで、各自が探究テーマを決定して探究活動を始めています。

途中、3回中間発表を実施して、そこでも実験方法や探究過程を全員で討議して、探究活動をより良いものにする取り組みをしています。今回は中間発表の2回目です。まだまだ、研究が深まっていない、データを取るところまで至っていないグループが目立ち、先行研究を良く調べなおして、実験方法や仮説をもう一度見直すよう、厳しい指摘も受けていました。

次回の中間発表会は12月に予定されています。

☆ 長野県高等学校スーパーバイザー花岡清二氏(セイコーエプソン相談役)と県内高校生との座談会が本校で開催されました ☆

9月27日(土)、本校附属中学校講義室において、長野県教育委員会主催、セイコーエプソン株式会社相談役花岡清二氏による講演会と座談会が催され、大町、松本工業、岡谷工業、諏訪清陵から31名の高校生が参加しました。

当日は「イノベーションの現状」という演題で、花岡氏にご講演をいただいた後、「イノベーション人材と学校での学びについて」というテーマで花岡氏を囲んで、座談会を行いました。

花岡清二氏はセイコーエプソンの前身である諏訪精工舎に技術者として入社され、長くインクジェットプリンターの開発に関わられた方で、インクジェットプリンターの生みの親、育ての親と呼ばれている方です。

花岡氏はプリンター開発に関わったのち、Epson America, Inc. 副社長、本社長、会長として企業の経営に関わった経験を踏まえて、「イノベーション」を支える人材に必要な資質や、イノベーションを起こすことができる人材を生み出すための組織の条件についてお話を頂きました。その中で、企業も人も、常に先を読みながら「イノベーション」を起こしていかなければならないことなどお話を頂きました。花岡氏のお話の中で、「イノベーションは技術開発の分野のみならず、商品の販売・営業など企業活動の全ての場面で必要である」、「個性豊かな人は組織で浮いてしまうことがあるが、そのような人を大切にすることで人材が育ち、企業や社会のイノベーションが起きる」というお話には特に感銘を受けたようです。



生徒から出た「どの社も出していない商品を出すことは、リスクが大きいのでは」とか、「高性能のプリンターを販売することで写真屋さんを廃業に追い込むのでは」などの質問に対しては、「最初に出した方が絶対に強い。まず、市場を押さえることが必要です。そして、2番手なら先行商品を超えるものを出さないといけない」、「ビジネスの世界では、常に新しい分野を切り拓き開拓した会社生き残る」と答えられていました。

「皆さんはこれから色々な課題、壁にぶつかるが、それを乗り越えることで人間は成長する。ぜひ課題にぶつかったら逃げないで正面からぶつかってそれを解決する人になるよう。課題解決型の人間になれるよう取組んでほしい。心技体、体も鍛えるように！」とのエールを頂きました。